

## はじめに

現代社会では、急速な技術革新や価値観の多様化が進み、子どもたちに求められる力も変化し続けています。特に近年、学力の向上だけでなく、子どもたちが心身ともに健やかに成長し、よりよい人生を歩むための「ウェルビーイング」の視点が教育においても重視されるようになってきました。

こうした中、子どもたちが自ら学び、他者と協働しながら未来を切り拓く力を育むことが求められ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が大きなテーマとなっています。交野市においても、一人ひとりの学びの多様性に応じた指導の工夫と、他者との対話や協働を通じた学びの深化をめざし、日々の教育活動を進めています。

令和6年度に交野市教育センターが受けた相談総件数は2,086件でした。近年は、児童・生徒一人ひとりの状況に応じた支援の重要性が高まっており、教育に関わる様々な相談に対して学校やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と緊密に連携し、課題の解決を図ってきました。今後も引き続き一人ひとりに寄り添いながら対応を進めていきます。また、いじめや不登校等の解決は急務であることから、各学校における教育相談体制の一層の拡充、関係機関との連携を支援し、教育センターでの相談業務をはじめとした生徒指導体制をより充実させていきます。各学校では組織的な生徒指導体制の構築と多職種連携を進め、児童・生徒が必要とする支援により早くつなぎ、いじめ・不登校の未然防止、早期発見、早期対応に努めていきます。

教育センターでは、教職員の専門的知識・技能と実践的指導力の向上を図るため、キャリアステージに応じた研修の実施、校内研修を充実させるための支援等を行うとともに、経験の浅い教職員を対象としたフレッシュサポート事業や5年めの教職員を対象とした授業充実支援事業等を通して、「かたのスタディ」や「授業づくりハンドブック」等を活用した指導・助言を行い、教職員の指導力・資質の向上をめざした取組みを継続しています。また、令和6年度には交野市小・中学校教職員教育研修として、第三中学校区において公開授業を実施し、「協働的な学び」をテーマに子どもたちの学びが深まる集団づくりの在り方や授業づくりの在り方について教職員と共有しました。今後も、交野市の9年間教育をより充実させ、各学校、各中学校区及び義務教育学校区におけるめざす子ども像の実現に向け、取組みを実践するとともに研究を深めていきます。

児童・生徒支援ルーム「グレープ」では、子どもに寄り添い、学習活動や交流活動を通じて、社会的自立をめざす支援をしています。令和6年度は、教科学習だけでなく、野菜の収穫や理科実験、七宝焼きなどの体験活動や、ALTによる英語の出前授業、交野市給食センターでの食育学習等を実施しました。今後も児童・生徒の社会的自立をめざした取組みを進めていきます。

このように、教職員の指導力・資質向上や教育相談をはじめとする生徒指導体制の充実等、教育センターに求められる役割はより一層大きくなっています。今後も、研修等の内容や相談機能をはじめとする生徒指導体制をより一層充実させ、皆様方のご協力を得ながら、より信頼される教育センターとして、交野市の教育の発展に寄与できるように努めてまいります。

令和7年4月